

沖縄神話と環太平洋神話群

丸山顯徳(花園大学)

沖縄諸島は沖縄本島、宮古諸島、八重山諸島という三つの諸島からなる。それぞれの諸島の創世神話を紹介する。

1 沖縄本島:

- 伊江島の創世神話(東南アジアにつながる)
- 名護の創世神話(北太平洋につながる)

2 宮古諸島:

- 漲水御嶽(はりみずうたき)の神話(蛇婿入り型)
- 多良間島の神話(日光感精型)
- 池間島の大主御嶽の神話(日光感精型+火の神型)

3 八重山諸島:

- 八重山の起源神話(多様な要素あり、南太平洋の要素もある)
- 伊良部島の島建神話(日本・韓国・中国に広がる型、天の神と竜宮の神)

メラネシアなど環太平洋地域との文化的連続を考え、八重山の起源神話を例に比較を広げてみたい。この神話では、天の神がアーマンチューに命令して八重山を作らせ、地中から最初の生物としてヤドカリ(アマン)が出現する。ヤドカリはアマンである。天と地の出現物が同じ名称なのは興味深い。またアマンは南太平洋に広がる名称である。さらに、出現した兄妹が池の周りを回り結ばれるという伝説の池がある。石垣市内にあるが、現在は開発で消えてしまった(写真はあり)。兄妹が柱の周りを回って結ばれるというモチーフは広く分布している。

次に沖縄諸島の起源神話にだが、大きな問題なので、ここでは大まかな分布を紹介するに留めたい。天地分離型、卵生神話型、太陽と月による創世、天の神が国土を作らせる形などさまざまなタイプが見られる。

沖縄には基本的に海の神話・民話が多い。それらが環太平洋地域の神話とどこまで連続しているのか明確にはわからないが、いくつか例を紹介してみたい。

中国神話と日本神話を比較研究されていた故伊藤清司氏(慶応大学)が、かつて、メラネシアのレンネル島を調査し、同地の円環的な宇宙観を紹介している(「レンネル島の昔話と他界観」学生社)。沖縄では、中国的な天空神が入り、倫理的な神が日常的な生活の中に入ってきているが、その基底には海の生活があり、自然の太陽や月や星の恵みの中で暮らしている。海の彼方の世界は竜宮(ニライカナイ)があると信じられている。そういうものが柔軟に円環的な感じがするというのが、私の想定です。根底のところではメラネシアと共通しているように感じる。中国の絶対的な偉い神による断絶した異界と、循環する異界という二つの世界像があるだろうが、沖縄の神話的世界は円環的な循環するものと思える。こういう世界観がのどかな海の世界にロマンを感じさせ、安心した暮らしをもたらす原因になっているのだろう。